

そらこめ通信

No.55 2015年2月号

このたびは弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。日頃よりご愛顧頂いております皆様にはこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。

この時期における農家の作業といえば、もっぱら除雪作業が主流です。沼田町は昔から北海道の中でも豪雪地帯として名を馳せた地域。そんな沼田町には「利雪」といって、雪を利用した複数の施設があります。そのほとんどが、冬に降り積もった雪を夏場まで保管し、夏の冷房資源として利用するというもの。有名な施設では「雪中米」というブランド米を保管しているスノークールライスファクトリーがあります。また、「ゆめっくる」という学習センターや養護老人ホーム、町営のしいたけ栽培ハウスなどでも冬場に貯蔵した雪を使い冷房を行っています。それら施設での夏場における電気使用量は他市町の同様な施設に比較してきわめて少なく、ランニングコストが安く済むのが特徴です。

雪は春になれば融けてなくなってしまうもの。また、一時に大量の雪が降ると生活にも支障が出るなど、今まではどちらかといえば「やっかい者」として扱われてきました。しかし、今では天の恵みです。現在、沼田町には沼田式雪山センターというのまであります。これは、町営で運営している雪の貯蔵施設・・・といっても単なる大きな雪の山ですが。でも、この雪山をパーク材などで被覆して夏まで保管することで、それらは資源の山に変身するのです。夏には1トン当たり1,000円で販売もしています。買い手は主に町民たち。彼らは自宅に雪冷房の施設を持っています。

かつては冬場の「やっかい者」だった雪。しかし、それらの逆境を逆手にとりてしまうやり方は、まさに里山資本主義(藻谷浩介さん、NHK広島取材班共著)そのものです。



倉庫に祀られた鏡餅(12月29日)



新雪の中に佇む倉庫(1月3日)



本社の精米プラント(1月3日)



トラクターを使った除雪作業(1月15日)



中型除雪機での除雪作業(1月15日)



中型除雪機を使って育苗ハウス周辺の除雪作業を行う木村社長(1月16日)



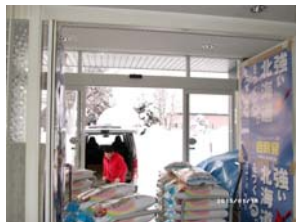
奥さんはスコップで除雪(1月16日)



除雪が進む育苗ハウス(1月16日)



出荷を待つ「ゆめびりか」(1月18日)



帯広市まで運搬するためにワゴン車に商品を積み込む木村社長(1月18日)



十勝三菱自動車販売(株)さん(1月19日)



商品の積み出しをお手伝い頂いた十勝三菱自動車販売(株)の職員の皆さん(1月19日)



3合パックの製作作業(1月20日)

帯広市に本社がある十勝三菱自動車販売株式会社さんには、かつて拓哉さんが在籍していたこともあり、ここ数年お正月の初売りセールでの景品として弊社の米を使って頂いています。十勝方面に何とか販路を拡大したいと考えている弊社にとって、こうして地元の方々に食べてもらい評価して頂くことは大変ありがたい事です。これからもこうしたお付き合いを大事にしていきたいと考えています。

安全で美味しいお米の生産に精一杯努めますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願いいたします。
(株)空知こめ工房 ホームページ
<http://www.sorachi-kome.jp/>
ブログ「生産日誌」更新中です

インターネットで美味しいお米!